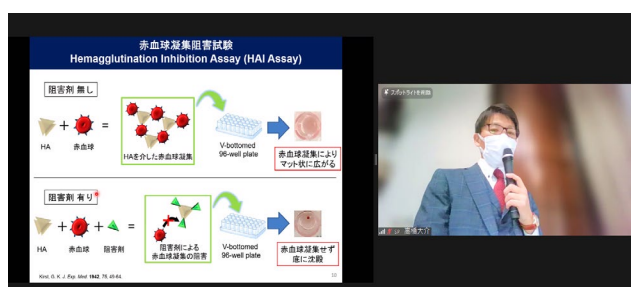


国際共・共拠点 2022年度成果報告会を開催しました

東京大学医科学研究所 国際共同利用・共同研究拠点の2022年度成果報告会を3月13日、14日、15日の3日間にわたり（2日目は千葉大学真菌医学研究センターとの合同成果報告）開催しました。第1日目、第2日目はハイブリッド（医科研講堂およびZoom）、第3日目は完全オンラインで実施しました。国際・国内共同研究のハブとして機能するという目的のもと設定された3つのコア研究領域（領域1、領域2、領域3）からそれぞれ、国内共同研究16件、国際共同研究6件の研究成果が紹介され、オンサイト・オンラインで国内外、各分野の研究者174名が参加しました。

初日の3月13日は東京大学医科学研究所の山梨裕司所長による開会の辞で始まり、ウイルス免疫療法開発など先端医療研究開発分野（領域1）から4件、ゲノム・がん・疾患システム分野（領域2）から4件の研究発表が行われ、最先端の知見が紹介されました。

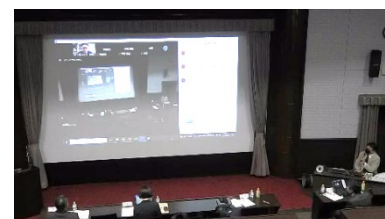
特別講演：高橋大介先生



千葉大学真菌医学研究センターとの合同成果報告会となった第2日目は、米山光俊先生から開会のご挨拶をいただいた後、慶應義塾大学理工学部応用化学科の高橋大介先生より「有機化学を基盤とした人獣共通感染症に対する糖鎖医薬開発への挑戦」と題した特別講演をいただきました。質疑応答では研究領域外の研究者からも、その手法や今後の展望・応用について多くの質問が寄せられました。

会場（講堂内の様子）

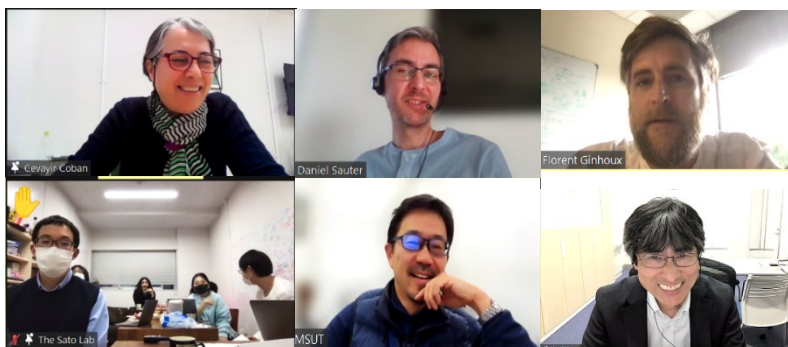
続いての合同成果報告会では、千葉大真菌医学研究センターから4件、医科研の感染症・免疫分野（領域3）から4件の発表があり、その進捗と成果が紹介されました。発表後には会場およびオンライン参加者、座長、発表者の間で白熱した議論が繰り広げられました。



最終日の15日は国際共同研究について、領域ごとに海外の登壇者6名から発表が行われました。質疑応答には教授、若手研究者のほか受入教員の研究室から参加した学生も加わり、座長の司会のもと、活発な意見交換が行われました。

3日目（国際）QA セッション

上段左から：Cevayir Coban 先生・Dr. Daniel Sauter・Dr. Florent Ginhoux



下段左から：佐藤佳研究室・石井健先生・岩間厚志先生（医科研副所長）

コロナ禍の影響を受け、2020年度より同成果報告会は完全オンラインで開催してきましたが、今年度は3年振りに医科研講堂にて特別講演と研究成果発表をいただき、初めてのハイブリッド開催となりました。オンサイト・オンラインを問わず、参加者間で熱心な議論も交わされ、同報告会は組織・機関の枠を超えた有意義な情報共有の機会となりました。

※来年度、千葉大学真菌医学研究センター・医科研合同開催の共共拠点成果報告会は10年目を迎えます。